

「ぶんぶんひろば」における授業の実践
「子どものための音楽会」
(学芸学部 音楽学科)

1. ねらい

「子どものための音楽会」は、広島文化学園大学学芸学部音楽学科2年次の「演奏活動Ⅰ」（前期：選択科目）、「演奏活動Ⅱ」（後期：選択科目）の実践学習の一環として2011年度から開催している音楽会である。月に1回から2回、木曜日の11時30分から12時の30分間、子ども・子育て支援研究センターぶんぶんひろばにて実施している。

「演奏活動Ⅰ」「演奏活動Ⅱ」は、子どもを対象とした演奏会について、プログラムの組み方、企画の立て方、しゃべり方、立ち振る舞いを始め、子どもたちをひきつけるためのパフォーマンス力を磨くための科目である。さらに、子どもや保護者の演奏ニーズを把握し、そのニーズに応じた演奏会を開催できるようにすることを目標としており、学内の実践学習として、未就学児とその保護者を対象とした「子どものための音楽会」を開催している。

2. 活動の内容

「演奏活動Ⅰ」「演奏活動Ⅱ」では、企画→準備→練習→リハーサル（学生による相互評価）→本番→アンケート集計およびDVD視聴による振り返り（反転学習）→報告書の作成→反省点をもとに次回の音楽会を企画する。といった流れで音楽会に向けての準備を行っている。学生には、グループ毎に2・3曲の手遊び歌を用意すること、そして子ども達が簡易楽器などを使って音楽に参加する場面を作ることを条件とし、その他の曲目などについてはグループ楽器編成にあった内容と演出を自由に考えても良いとしている。



写真1 子ども達とのふれあいを重視した実践

写真1は音楽会の一場面である。ぶんぶんひろばを利用する子ども達は、あらかじめ受付にて名前を記入したシールを貼る事になっているが、2015年度は、子ども達のふれあいを重視した活動を取り入れるために、音楽会の時には胸にシールを貼ってもらうようお願いし、学生たちが子ども達の名前を呼ぶ場面を取り入れた。

学生らは童謡、唱歌、クラシック、アニメソングなどの演奏ほか、手遊び歌、音楽絵本や紙芝居、ペープサート、ダンスなどの企画を考え、30分のプログラムを子ども達を飽きさせないような工夫を凝らしながら準備していく。

保護者へのアンケート調査はすべて記述式で①プログラムの中で良かった曲、②子どもに聴かせたい曲、③実際に家庭で子どもに聴かせている曲、④子どもの年齢と性別、⑤音楽会の参加回数、⑥自由記述（学生へのメッセージ・要望など）の6項目を設定している。

学生たちは実践後にアンケート集計とDVDの視聴を行い、子どもの反応やニーズ調査の結果をもとに、次の音楽会に向けたプログラム改善を行っている。

さらに後期からは「子どものための音楽会」と並行し隣の幼稚園、保育園、小学校、児童館での学外実習も行い、未就学児、園児、児童の年齢層の違いによる反応の違いやプログラムの組立て方などを実践的に学べるように設定してある。

3. 2015年度実績報告

2015年度は前後6回、後期3回あわせて9回の「子どものための音楽会」を開催した。前期の履修学生は14名、後期の履修学生は6名である。後期の履修学生が少数だったため、学生への負担を考慮し音楽会を月1回に設定し、楽器編成も変更なしで実施した。

表1 2015年度「子どものための音楽会」実施概要

回	実施日	楽器編成
1	5月14日(木)	箏十三絃、打楽器、ピアノ、声楽
2	5月21日(木)	クラリネット×3、サクソフォン×2、
3	6月11日(木)	トランペット、トロンボーン、ユーフォニアム×2、テューバ
4	6月18日(木)	クラリネット×3、サクソフォン×2、
5	7月16日(木)	箏十三絃、打楽器、ピアノ、声楽
6	7月30日(木)	トランペット、トロンボーン、ユーフォニアム×2、テューバ
7	11月5日(木)	クラリネット×3、サクソフォン×2、テューバ
8	12月3日(木)	クラリネット×3、サクソフォン×2、テューバ
9	1月21日(木)	クラリネット×3、サクソフォン×2、テューバ

(実践資料および授業記録から作成)

表1は2015年度に開催した「子どものための音楽会」の概要をまとめたものである。それぞれのグループ毎にテーマや副題を決めて30分のプログラムを組み立てた。



写真2 鈴やシェイカーなど扱いやすい楽器を用意

写真2は、簡易楽器を子ども達に配布している様子である。学生たちは子ども達の名前を呼びながら楽器を渡すようにしている。プログラムの中に必ず子ども達や保護者が参加できるコーナーを組み込み、「おもちゃのチャチャチャ」などの楽曲を使用し、参加者へ音楽活動への参加を促した。アンケートの結果からこの取り組みは保護者からも好評であったことが窺える。



写真3 子ども達が触れる楽器は衛生面にも配慮

写真3は、子ども達が使用した楽器を、一つ一つ除菌シートで拭きながら片づけている様子である。学生たちはこのような活動を通して、子ども達にとって必要な安全面や衛生面への配慮などについても学んでいる。

さらに2015年度から、子ども達をお見送りする活動を実施した。学生たちとハイタッチをするなどのふれあいの場面となるだけでなく、保護者か

ら直接の感想を聴く機会にもなっており、今後も続けていきたい活動である。



写真4 演奏会終了後のお見送りの様子

4. 今後の課題と展望

「子どものための音楽会」の開催日をぶんぶんひろばの開園日ではなく、木曜日に設定したことで、音楽会の開催を知らずに来た親子が、入場できないなどの問題が解決した。また、学生にとっても演奏会の15分前までリハーサルや準備をおこなう事ができるとともに、音楽会終了後の片付けや参加者への見送りが十分に行うことができるようになった。

保護者へのアンケート調査の記述を見ると、学生たちの真摯な態度や子ども達を楽しませようとする一生懸命な姿、そして趣向を凝らした演奏や演出が好評を得ている様子である。また、学生達も、保護者のアンケート用紙に記載してある激励や感謝の言葉を受け取ることで、次回の音楽会に向けての士気が上がっており、よい相乗効果を生んでいる。

しかしながら、2015年度は後期の履修者が半分以下に減ってしまい、音楽会の開催日程を月2回から1回へ減らさざるを得なかった。学生たちは、やりがいや充実感を感じながらも、演奏準備や練習などに負担感を感じているのも現状である。また、履修学生の専攻楽器にもバラつきがあり、楽器編成上編曲などが必要になる場面も多々見られた。

次年度については、学生と地域の親子、両者が満足できる音楽会となるよう、学生たちへのアドバイスや援助をさらに充実させ、負担感軽減に努めるなど、これからも指導内容を充実させてゆきたい。

(文責：学芸学部音楽学科 高橋 千絵)